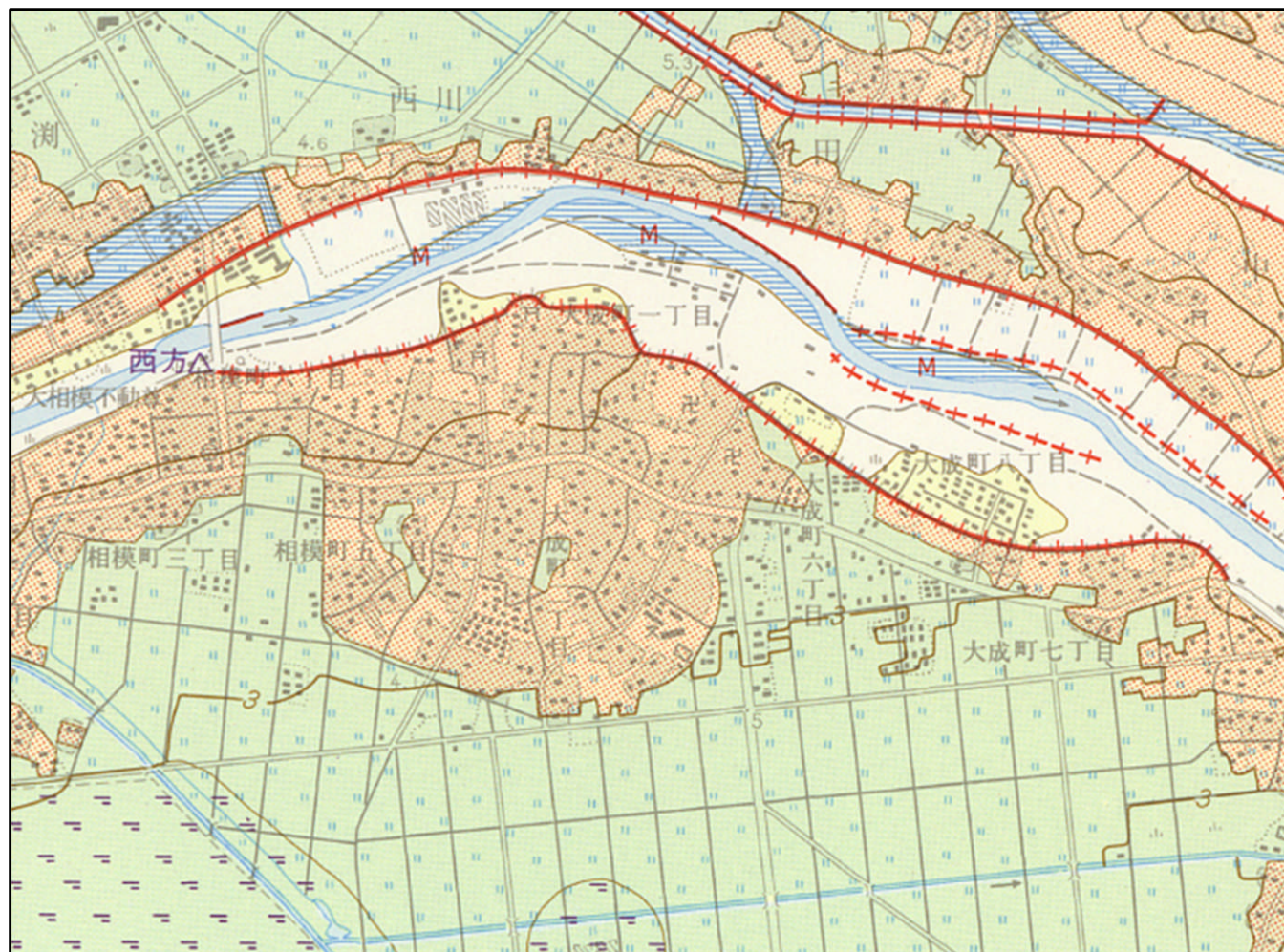
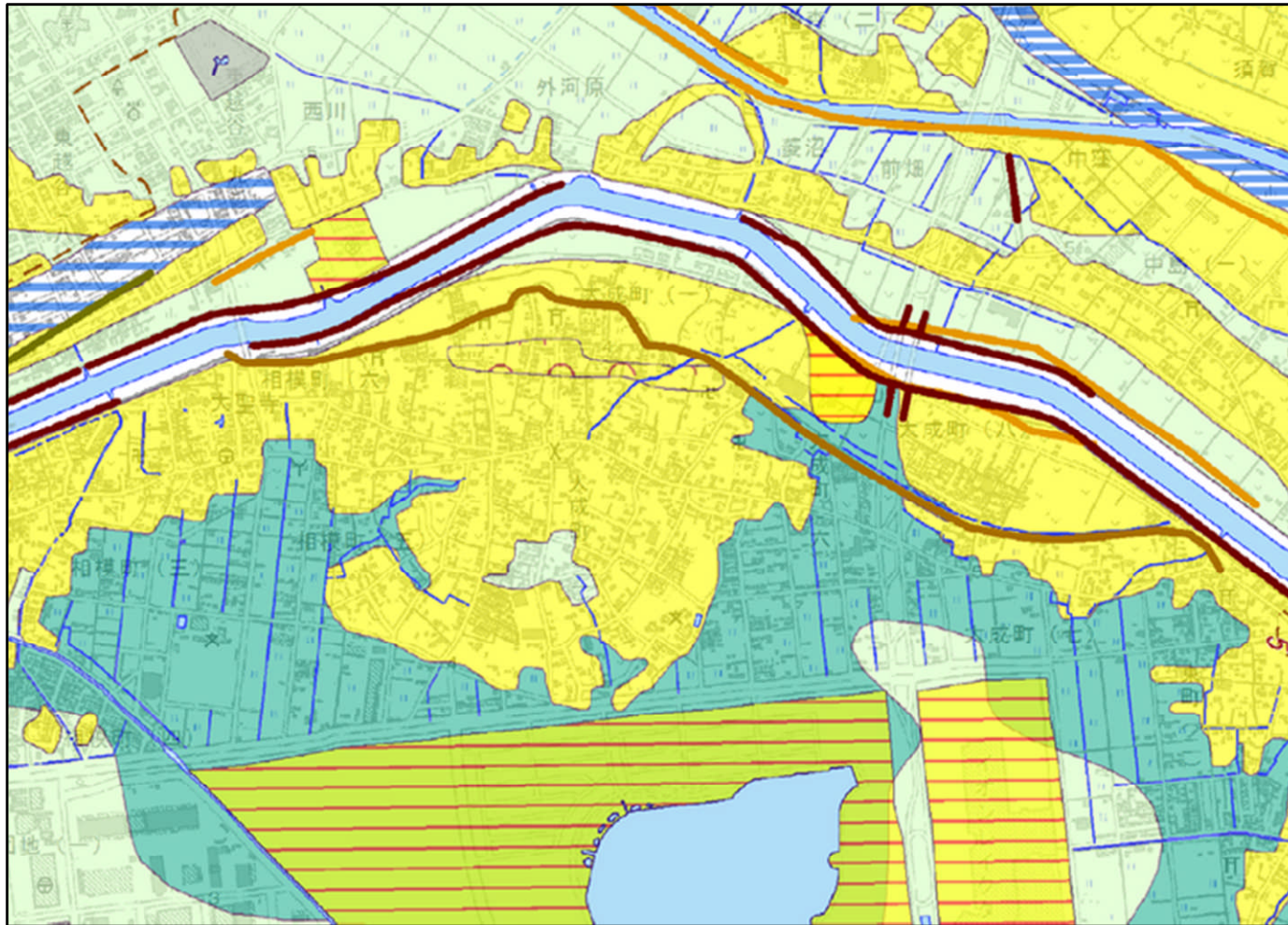
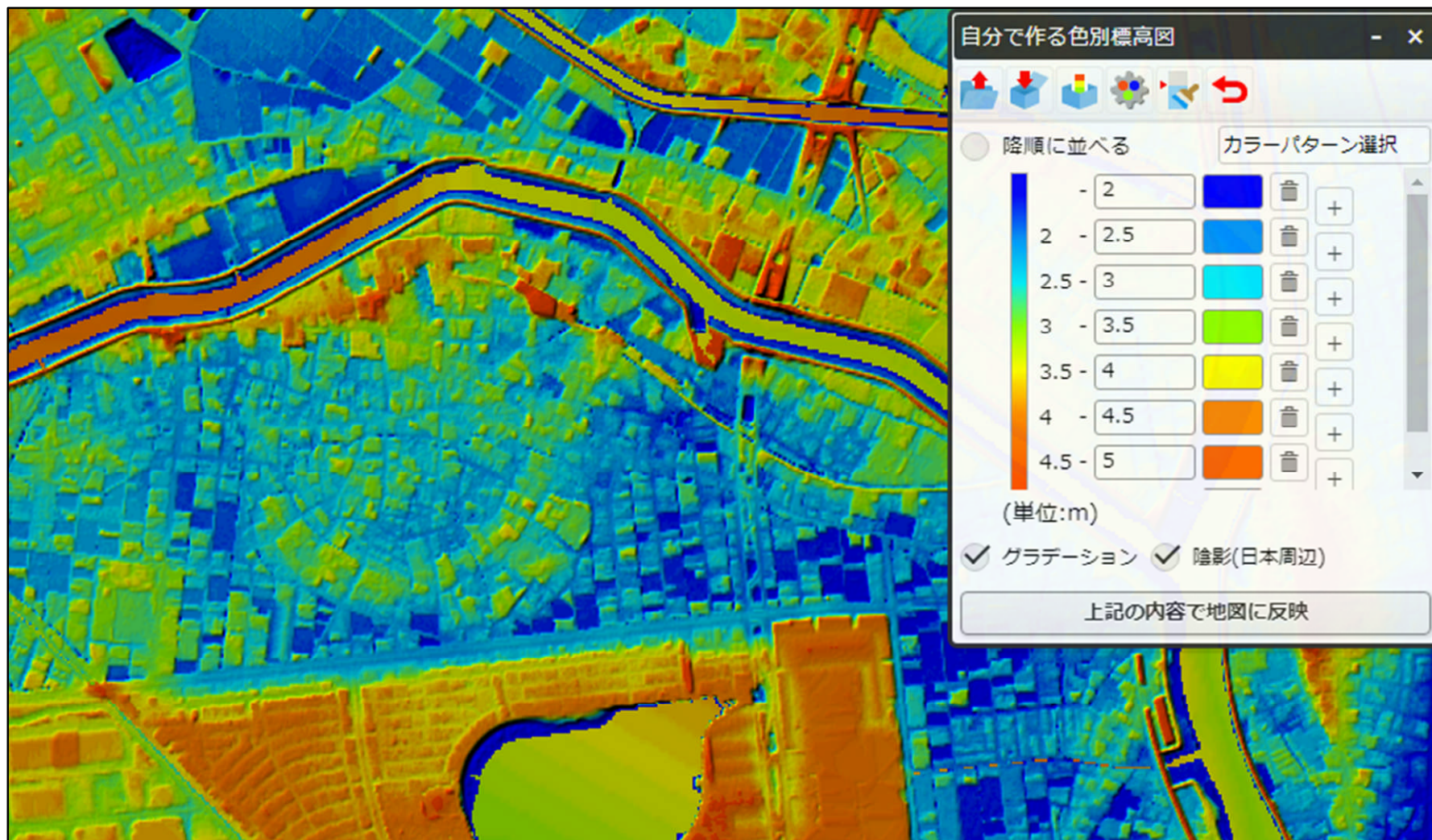




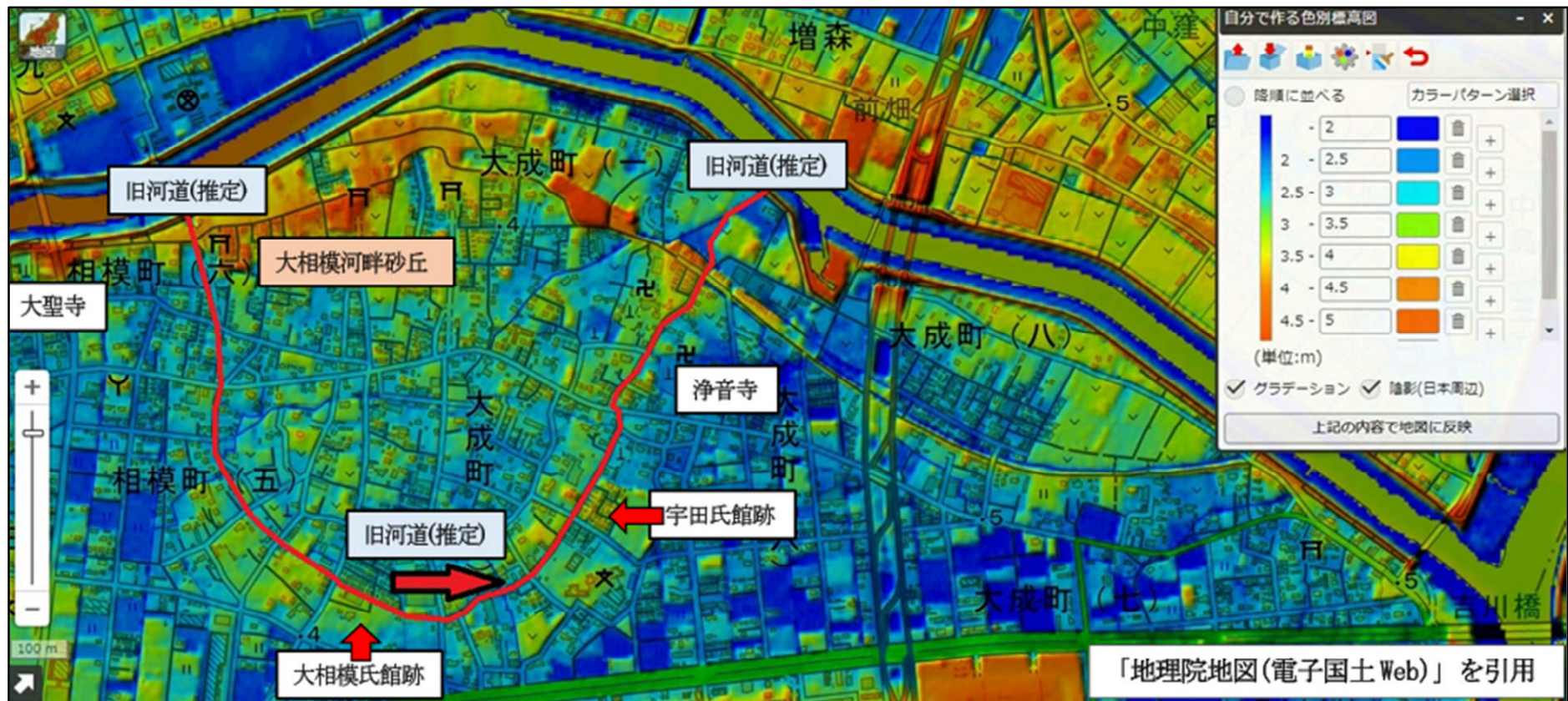
地理院地図(電子国土 Web) : 「治水地形分類図(初版 : 1976～1978 年)」より引用
「大相模郷」は「南に凸」の
「半円形」の「ほとんど全て」が「自然堤防」である。
ゆえに
「旧河道」が「どこを流れていたのか」を「推定」出来ない。



地理院地図(電子国土 Web) : 「治水地形分類図(更新版:2007 年以降)」より引用
「大相模郷」は「南に凸」の
「半円形」の「ほとんど全て」が「自然堤防」である。
ゆえに
「旧河道」が「どこを流れていたのか」を「推定」出来ない。



地理院地図(電子国土 Web) : 「自分で作る色別標高図」より引用
「大相模郷」は「南に凸」の
「半円形」の「旧河道沿いの一部」が「自然堤防」である。
ゆえに、「旧河道」が「どこを流れていたのか」を「線」として「推定」出来る。
※「自然堤防」の位置は、「国土地理院」の「デジタルデータに依拠」し
「標高パターン」及び「色別」は、「オリジナルデータ」である。



上記の「オリジナルデータ」を基に
「大相模郷」の「自然堤防」の「位置を把握」
「旧河道」が「どこを流れていたのか」を「線」として「推定」
「大聖寺」「大相模氏館跡」「宇田氏館跡」「浄音寺」が
「旧河道」の「自然堤防」上に位置していることを「発表」したのは
秦野 秀明(2023)「仮説 「大相模郷」の地形は「元荒川(利根川本流)旧河道」が形成した」
http://koshigayahistory.org/230614_ohsagamigoh_h_h.pdf
である(発表:2023年6月14日)
「大相模郷」の「自然堤防」の「位置を把握」
「旧河道」が「どこを流れていたのか」を「線」として「推定」する方法は
管見の限り、「国土地理院」の「デジタルデータ」に依拠する手法がベストである。